

事業のタネシート

活動地域・団体名： 熊本県小国町

事業名称 1：地熱を利用したスマートアグリビジネス事業（カカオ豆生産の実証実験）

あらすじ

地熱の2次利用と、新たな農産物の開拓を結び付けた新たなスマートアグリビジネス事業の実証実験

ストーリー

小国町では、これまでに地熱を利用した農作物栽培の実証実験を行っており、マンゴー栽培等の可能性があることは分かっている。しかしながら、まだ生産に結びついたものはない。そのような中で、近隣市でチョコレートショップを展開する県内企業が、チョコレートの原材料となるカカオ豆の生産の可能性（亜熱帯の環境の確保）を当町で模索している。

よって、小国町の地熱ハウスでの野菜栽培による同企業の目指す地産地消のチョコレートの生産と、町の新しい農産物の生産及び雇用を目指す。また、原材料等の輸送に伴い排出されるCO2削減によるフードマイレージ問題の解消及び人材育成・新規雇用の創出、農業従事者の働きがい・経済成長を目指す。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	SDGs推進のための研究・交流拠点整備と新産業が創出できるまち	・カカオ豆の生産企業は確定しており、栽培の実証実験受入れ地熱発電事業者もおおよそ目途がついているが、カカオ豆の収穫・生産（実証実験）には数年を要する（約4～5年）。
②課題	・亜熱帯地域の農作物に栽培に知見を持つ専門家からの協力をどう得るか ・栽培場所	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	農業従事者の新規農作物の生産と、これまでにない国内生産原料のチョコレートの商品化による市場の開拓	
④地域資源	地熱（熱水）、農業従事者	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	地産地消のチョコレートの販売	
⑥担い手（Who）	地熱発電事業者（カカオ豆栽培実証実験者）、カカオ豆生産者（チョコレート事業を行っている企業）、チョコレート製造加工・販売事業者（チョコレートショップ）	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	エネルギー（熱）⇒農作物の生産⇒雇用（人）⇒商品の流通・人（観光客）の流通	・亜熱帯地域の農作物に栽培に知見を持つ専門家及び事業者
⑧事業で生じる成果	・町の新しい農産物の生産及び雇用 ・原材料等の輸送に伴い排出されるCO2削減によるフードマイレージ問題の解消及び人材育成・新規雇用の創出、農業従事者の働きがい・経済成長	

事業名称 2 : 新モビリティサービス (グリーンモビリティバス) の社会実装の検討

あらすじ

高齢化に伴う交通弱者の救済、公共交通サービスの縮小、加えて交通事業者におけるドライバー不足という町の切実な課題を解決するため、新モビリティサービス (グリーンモビリティバス) の社会実装の可能性について検討する。

ストーリー

グリーンモビリティバスの導入に向けては、平日は役場・病院・スーパー等がある町の中心地と交通弱者居住地域を結び、週末や休日には町の中心にあるバス停と観光スポットを結ぶルート運営を目指し、渋滞緩和だけでなく、生活基盤の維持・拡充としての住民と観光客の移動手段確保による人によさしく地域の魅力を引き出す交通システムを目指す。

併せて、地熱発電等の地産再エネ電力を急速充電気設備で供給することによる地産地消再エネ100%のEV車運用を目指し、再エネ利用とCO2削減を目指す。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源の有効活用を実現するまち ・町内が一体となって脱炭素行動ができるまち 	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーンモビリティの確保 ・交通事業者におけるドライバーの確保 ・運輸局やグリーンモビリティバス運行事業者との調整 (とりわけ法規制によるもの)
②課題	<ul style="list-style-type: none"> ・車両の確保 ・運行に向けた関係機関との調整 	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	交通弱者 (とりわけ高齢者) の救済と、公共交通サービスの縮小、加えて交通事業者におけるドライバー不足という町の切実な課題の解決を図るため。	
④地域資源	地熱発電等による再生可能エネルギー、観光スポット (北里柴三郎記念館、坂本善三美術館、鍋ヶ滝ほか)	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	交通弱者のための移動サービス、観光客のための観光 (移動) サービス	
⑥担い手 (Who)	小国町、交通事業者、地域新電力会社	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	<ul style="list-style-type: none"> ・交通弱者の減少⇒行動範囲の拡充⇒買い物等による経済循環と健康・福祉等のサービス需給 ・観光客の増加⇒交流人口・関係人口の確保⇒観光消費額増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・国土交通省及び経済産業省 ・グリーンモビリティ製造販売業者 ・交通事業に知見を持つ専門家及び事業者 ・近隣自治体 ・小国町商工会 ・小国町社会福祉協議会
⑧事業で生じる成果	<ul style="list-style-type: none"> ・交通弱者 (とりわけ高齢者) の救済 ・脱炭素化 ・近隣町村との連携による負担の軽減 	

事業名称3：ツーリズム（グリーン、医療、教育）によるSDGs（地域循環共生圏づくり）の普及展開

あらすじ

2019年度から町では、北里柴三郎記念館や鍋ヶ滝などに例年以上の観光客が押し寄せたり、SDGsの取組への視察の申込みが増加。しかしながら、泊りは近隣町村、食事は町外でというパターンも少なくなく、町の持ち出し（職員の人件費等）のみで経済効果に繋がっていない。そのような現状を打破するため、ツーリズムによる仕組み・商品化作りを行う。

ストーリー

小国町は環境モデル都市・SDGs未来都市として、これまで学校における環境教育やSDGs教育を行い、受験（入試に出題）などで一定の成果を上げてきた。他方、社会教育におけるSDGs教育は十分ではないため、価値ある木族建託を研究・交流拠点を整備するとともに町民や都市部の住民・観光客、企業を対象としたフォーラムや勉強会、またアカデミックツーリズムを開催し、SDGsへの理解を深めることを目的としたSDGsの普及啓発と住民が一丸となったSDGsの推進を目指す。
また、小国町出身で2024年の新千円札の肖像画に決まった北里柴三郎博士の「学習と交流」という理念に基づいた教育旅行と、博士が進めてきた「予防医学」に基づき、病気に負けない体づくりや健康増進に小国の地域資源である自然や温泉を結び付けツーリズムビジネスを展開し、都市と農山村の交流（交流・関係人口の増加）及び生物多様性の保全を目指す。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	SDGs推進のための研究・交流拠点整備と新産業が創出できるまち ・町が主体的に行う地域資源の有効活用を実現するまち	<ul style="list-style-type: none"> ・建築の専門家及び地域コーディネーターの確保 ・観光やツーリズムの企画運営の事業者の確保及び調整 ・ガイド不足（人材育成を含む） ・インバウンドへの対応（とりわけ通訳や案内板、説明文などの外国語表記）
②課題	<ul style="list-style-type: none"> ・アカデミックツーリズム実施に向けた仕組みづくり及びそれに係る専門家の確保 ・ガイドの育成 	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	<ul style="list-style-type: none"> ・資源（建築物）を有効活用し、木造建築の持続可能性について証明するため。 ・住民及び観光客へのSDGs（地域循環共生圏づくり）の普及展開と推進を図るため。 ・またそれによるESD教育旅行・観光ビジネスを創出するため。 	
④地域資源	旧西里小学校校舎、森林資源、北里柴三郎博士（北里柴三郎記念館）、自然、地熱/温泉	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	観光、医療、ESD/教育のツーリズム商品	
⑥担い手（Who）	教育：小国町、(株)ID22、地熱事業者 グリーン・医療：小国町、一財）学びやの里、ゆうステーション、地銀、旅行会社、交通事業者	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	教育：学校・社会教育におけるSDGsの普及⇒SDGsの推進、担い手育成 グリーン・医療：旅行者の呼び込み⇒観光消費額の増加、健康増進	<ul style="list-style-type: none"> ・建築の専門家 ・北里研究所、北里大学 ・旅行会社 ・交通事業者 ・各学校
⑧事業で生じる成果	<ul style="list-style-type: none"> ・交流人口の増加 ・外貨（町外）の獲得 ・雇用の創出 	